

第7回革新的研究開発推進プログラム有識者会議 議事概要

- 日 時 平成26年9月11日（木）10：14～10：33
- 場 所 中央合同庁舎4号館4階共用第2特別会議室
- 出席者 平副大臣、久間議員、大西議員、小谷議員、中西議員、橋本議員、
平野議員
- 事務局 阪本内閣府審議官、森本審議官、中西審議官、山岸審議官、
中川参事官、岩田企画官、河内参事官

○ 議事概要

午前10時14分 開会

- 久間議員 ただいまから、第7回革新的研究開発推進プログラム有識者会議を開催させていただきます。

本日の議題は、「プログラム・マネージャー決定後の進捗状況について」です。本年6月24日のC S T I本会議におきまして、12名のPMを決定し、同26日にPMからそれぞれの研究開発構想のプレゼンをしていただいて以来、各PMには研究開発プログラムの作り込みを進めていただいております。この間、各プログラムがI m P A C Tの制度趣旨に沿って作り込まれるよう、私と原山議員、橋本議員の3人で7月、8月と2回、全員に対して、一人一人、レビュー会を開催して、PMからの作り込みの状況報告を受け、必要な助言をしました。また、PMと意見交換をする中で、I m P A C Tの支援体制の充実・強化に努めてまいりました。

本日は、プログラムの作り込みについての進捗状況と、PMの活動基盤の構築状況についてご報告して、研究開発プログラムの実施に向けてご議論いただければと思います。

それでは、まず事務局から進捗状況等について、説明をお願いします。

- 河内参事官 それでは、お手元の資料、I m P A C T・PM決定後の進捗状況という横長の資料でご説明をさせていただきます。

最初のページはご案内のとおりのI m P A C Tの目的なり、特徴を記したものでございます。ハイリスク・ハイインパクトな挑戦的な研究開発を進めるということを目的とし、特徴としましては、アメリカのD A R P Aの仕組みを参考とした、プログラム・マネ

ージャーといった仕組みを導入しているということでございまして、我が国ではこれまでなかった仕組みだというふうな位置づけにしております。

真ん中の仕組みの欄をごらんいただくと、右側の方にマネジメントの流れがございまして、今は研究開発プログラムの作り込みという段階にございまして、研究開発全体のデザインをプログラム・マネージャーの方がやっている。さらには優秀な研究者等をキャスティングするといったような段階に来ているということでございまして、この後のステップを経て、研究開発プログラムの実施に向かっていくという状況でございまして。

次のページには、12名のPMの方々の顔写真を載せてございまして。後ほど説明をさせていただきますけれども、既に3名の方が所属がJST（科学技術振興機構）に変わっております。合田PM、佐野PM、八木PM。このプログラム・マネージャーを支えるということで、科学技術振興機構にその支援体制をつくっていただいているということでございまして。

それからPMの12名の方々、産業業界から5名、大学から6名、国立研究機関から1名といった、多彩な顔ぶれ、多様な経歴を持った方々でございまして、細かい経歴等は一番最後のページに何枚か載せておりますので、ご参照をいただければというふうに思います。

ページをめくっていただきますと、スケジュールが2ページにわたって書いてございまして。最初のスケジュールは、PMの決定、6月に行ったわけですがけれども、その前段、25年度の補正予算なり、関連法案を成立させたということで、3月までに基本的なルール等も決めた上でIMPACTを立ち上げたということでございまして、4月から6月にかけて公募、あるいは審査をした。7月以降、PMがそれぞれ着任を、JSTのほうに身分を変えていただくような段取りなり、あるいはそれを支える体制をつくっていただきながら、当初考えてきたプログラム開発の構想を、具体化していくという段階に来ているということでございまして、黄色で書いておりますが、研究開発プログラムの計画確認・承認というのを、今まさにこれからこの場でやっていっていただくという段階に来ているということでございまして、今日はその前段の状況説明というふうにご理解をいただければと思います。

次の4ページにその作り込み工程の詳細のスケジュールがございまして、研究開発プログラムの作り込みの中で、この有識者会議なり、あるいは大臣に主催いただく推進会議というのがございましてけれども、それぞれそういったところに諮っていく段取りになるわけで

すけれども、これまでレビュー会というのを、下の黄色のところがございますが、月1回のペースで開催をしていただいておりますけれども、久間座長のほうからお話がありましたように、3人の先生にフォローしていただいておりますという状況でございます。

ページをめくっていただきますと、その推進状況の経緯を簡単にまとめてございます。本会議の決定以降、推進会議をその直後に開催をさせていただいたと。また、その後にPM個別の面談、あるいはその説明会を開催させていただいたということでございまして、レビュー会をその後7月15日と8月14日と開催しました。それぞれ初めての制度だということもございますので、PMの方々と有識者の先生方とのディスカッションを通じまして、I m P A C Tの趣旨に沿った形になっているかどうかというようなことをよく議論させていただきながら進めてきたということでございます。

6ページは、作り込みの考え方の表でございまして、PMの皆さんはそれぞれ応募のときに提案をしてきた構想がございすけれども、これをさらに深化をさせる、深めるといったこと、あるいはその具体化をするといった中で、このI m P A C Tは時間をかけてもいいといったことにしておりますし、また、必要な経費を支出してもいいということにしております、これは大きな特徴であると思っております。概念的にはそこの図にございすように、当初、PMが掲げてきたような構想を深めるといった意味で、点線のところが当初考えてきた構想だとしますと、オレンジの社会的課題の解決、あるいは産業競争力の強化といったアイデアをさらに深めるというところ、これを外部の意見なり、アイデアをワークショップ等を開催をして取り入れていって、より本来の目的をさらに発展されるようなところまでやっても構いませんといった仕組みにしておりますし、さらにはその推進計画と青のところに行きますけれども、そこをつくるに当たりまして、当初、想定していた研究開発機関を見直したり、あるいはさらに別なところを選定するといったような、具体化の中での形づくりをして構わないという仕組みにしております。

ページをめくっていただきまして、今まさにこのPMの皆様方がプログラムの作り込みをしている段階でございますが、その中での事例的なマネジメントの方法が幾つか書かれております。制度としては画一的なルールで縛っているわけではございませんので、それぞれの方々が高いレベルの目標を達成するために、いろいろな工夫をされているということであります。ステージゲート方式、ゲートを設けて研究機関を競わせながら、目標設定してだんだん絞っていくといった方法でありますとか、大きな研究開発を委託する前段階で、

フィービリティスタディをかけて、できるかどうかというところを本当に見極めるといった方法、あるいはPMの皆さん、12名おりますけれども、それぞれ大型の施設などを共同で使うような段取りをしているとか、あとはファンディングの面でも、例えば途中段階で加速できるような資金をあらかじめ確保しておくとか、基金方式でもございますので、そういったこともできるような仕組みにしております。

さらには出口をしっかりと見据えた中で、外部資金の獲得をあらかじめ検討しているようなPMの方もいらっしゃるというふうな状況でございます。

次のページでございますが、PMの方が研究開発機関を選定するときの考え方を記しております。通常であれば公募とか、そういった方法が一般だと思いますけれども、このIMPACTの場合については、そのPMが自分の構想を実現するために、一番いいという方法をやっているよということをおっしゃるので、指名でありますとか、あるいは目ききを働かせて、しっかりとそのキャストイングをしてくださいよといったことがございます。ただし、その選定の方法につきましては、手順なり結果等は、しっかりと我々といえますか、納税者である国民の皆さんも含めて、納得できるようなものでなければいけないというようなことを申し上げているということでございます。

そういった説明責任を果たし、かつ関係者の理解と同意を得られることを前提にして、PMに研究開発機関の判断・権限が与えられるという仕組みでございます。

PMの皆さんの研究機関の選定の流れとしましては、それぞれどういったことを目標にしているかということがまず当然ございますので、それを課題にブレイクダウンして、その課題の目標を達成するための適切なアプローチを考えていただく。そのアプローチに最も適するような実施機関を設定するということございまして、具体的に言うと、公募の場合も当然ありますし、あるいは非公募の場合でも競争性があったり、なかったり、それもあるでしょう。ただし、冒頭申し上げましたように、そこは理解同意が関係者の方々の中で得られるような形でなければいけませんよということでありまして、最終的にはこの総合科学技術・イノベーション会議のこの有識者会議、あるいは推進会議の場で確認をしていく、承認していただくというふうな段取りにしております。

ページをめくっていただきまして、次のページから、PMの皆様方の活動を支える体制のところについて、幾つか整理をしております。まず、基盤構築の①のところは、PMの所属のところございまして、冒頭、少し申し上げましたが、JSTへ身分を変えていただ

くということにしておりますが、9月の段階で3名のPMの方が、既にJSTのほうに身分を変えていただいております。10月に7名、あと11月、1月ということで、当初、この辺のところはうまくいくのかなと、スムーズにいくのかなという懸念もあったわけですが、比較的スムーズに進展しているかなと思っております。

それからJSTへの異動形態についてでございますけれども、企業出身のPMの方、5名のうち、4名の方が出向形態、お一人の方は退職をされてJSTに来られるというように伺っております。それから大学、あるいは国研の出身のPMの方については、クロスアポイントメントの導入によりまして、大学とJSTの双方と、雇用契約を結ぶような形になりますので、その制度を活用してJSTに来る。それから退職の方が1名というようなことでございます。

エフォートの表が右側でございます。全業務量に占めるPMとしての業務の割合、エフォートと言っておりますが、基本的にはこれはPM、専任でお願いをしておりますけれども、一部、大学出身の方については、教員業務、あるいはIMPACTの研究業務ということで例外も認めております。それぞれの割合と該当するPMの方のお名前をそこに記しております。

それから次のところは②でございますけれども、支援体制でございます。PMのもとにPMを支える体制をつくっておりますが、PMがリクルートをする方と、それからJSTのほうでしっかりと支える体制と、2つのリクルートの方法がございますけれども、JSTのほうでは総員20名の体制で支援体制をつくっていただいております。研究のマネジメントのところについては、PMがリクルートする補佐、それから運営全般については、JSTによるPM補佐、さらには秘書業務をするようなアシスタントの方もつけていただいております。ただ、PMの個別事情がいろいろ取り組む内容に応じてございますので、そこは柔軟に体制構築をしていただくということでございます。

ページをめくっていただきまして、基盤構築の③でございます。これはPMの執務環境、JSTの環境でございます。JSTの別館9階フロアを全てIMPACT・PM用の執務環境ということで作っていただいております。

それから次のページ、広報・アウトリーチ活動について整理をしております。広報につきましては、7月30日にホームページを開設いたしておりますし、あるいは今後いろいろなアウトリーチ活動をしていくと。それと個々のPMの活動の中では、作り込みの過程の中

で、ワークショップ等々が今開催をされております。公開、非公開の場合、いろいろございますけれども、公開の場合については、広い意見集約なり、意見交換ができるというメリットがある一方で、情報の取り扱い、特に秘密を要するものについて、どういうふうにするかといったことについての困難もありますし、一方で非公開の場合については、その辺はクリアされますけれども、デメリットとしては、透明性についての懸念があるというふうなこと、そこはPMがいろいろご判断をしながら、戦略的にどういった形態で開催をしていくかということを考えてやっていただくという状況でございます。

それからめくっていただきますと、そのワークショップの事例を4つほど、宮田PM、山本PM、山川PM、佐橋PMについて、記しておりますのでご参照いただければというように思います。

それから最後に、今後のスケジュールについてですが、冒頭のところのスケジュールの4ページのところをごらんいただければと思いますけれども、今の作り込みをやっていただいておりまして、レビュー会を来週9月16日に開催をさせていただきたいというように思っておりまして、その状況を見て、その後の有識者会議、あるいは推進会議に諮って、研究開発プログラムの計画の確認、あるいは承認というふうにしていただければというように思っております。9月の下旬、あるいは10月の中旬ぐらいが目安かなというように思っております。そこで12人、多分全員というということにならないと思いますので、その後の方については、10月、あるいは11月といったところではどうかというように思っている状況でございます。

説明は以上でございます。

○久間議員 どうもありがとうございました。

我々も大変でしたが、我々以上に河内参事官やJSTの皆さんが精力的に6月以降頑張っていたいただいて、非常によくなったと思います。各PMの研究課題は、ハイリスクであるけれども、出口もハイリターンという目的が明確になってきたし、それを実現するためのR&Dのプロセスに磨きがかかりました。皆さんと議論する中で、こういったステージゲートを採用するとか、場合によっては最初から外部資金も獲得して、ベンチャー企業設立を目指そうとか、新しい仕組みも導入されつつあります。

全体的にうまくいっていると思いますが、先生方からさらなるアドバイス等ありましたら、よろしく願います。ご質問でも結構です。

プログラムの作り込み状況を説明する場は考えていますよね。

○河内参事官 計画は固まった段階で、公開の場で皆様方も含めて、一般の方にお知らせできるような場というのを考えたいなと思っています。

○久間議員 よろしいでしょうか。橋本先生もありがとうございました。何か一言あればお願いします。

○橋本議員 いえいえ、特にはないです。

○久間議員 ないですか。

それでは、この調子でさらにいい研究開発プログラムの作り込みを目指して進めていきたいと思います。PMごとに研究開発プログラムの全体計画がまとまった段階で、河内参事官がおっしゃったように、本有識者会議において内容を確認して、実行に移していきたいと思います。

それでは、以上で本日の第7回革新的研究開発推進プログラムの有識者会議を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

午前 10時33分 閉会